

防災まちづくりの支援制度ご紹介
防災まちづくりにご協力をお願いします！

羽田1～6丁目でご所有の土地の売却
 を検討している方へ

**UR都市機構が防災まちづくりのための
 土地取得事業を行っています！**

UR都市機構では、大田区からの要請を受け、平成31年4月から「羽田1～6丁目」において、地区の防災まちづくりのための土地取得事業（木密エリア不燃化促進事業）を行っています。

大田区とUR都市機構が協力し、取得した土地は、延焼防止や災害時の避難活動等に資する公園等整備や重点整備路線の道路拡幅を効果的に進めるために活用していきます。下記の連絡先までお気軽にご相談ください。

お問合せ先 羽田地区不燃化相談窓口
 03-6423-8118

事業に関するお問合せ先 独立行政法人都市再生機構
 東日本都市再生本部密集市街地整備
 羽田地区担当 03-5323-0351

期限間近 羽田2・3・6丁目及び
 バス通り・重点整備路線沿道で
 建物の建替えなどを検討されている方へ

助成制度が活用できます。

※まずはご相談ください。

大田区では、木造住宅密集地域を「燃え広がらない・燃えないまち」へと変えていくため、下記の助成事業を実施しています。

1. 不燃化まちづくり助成（不燃化特区）
 (対象区域：羽田2・3・6丁目)
 - ・各種建替え助成
 - ・老朽建築物除却助成
 - ・専門家派遣支援
2. 不燃化助成（都市防災不燃化促進事業）
 (対象区域：バス通り・重点整備路線沿道)
 - ・建替え助成

※助成期限
令和7年度末まで

1.不燃化特区 2.都市防

申請方法については右記QR
 コードからご確認ください



まちかどニュース 防災への取組み
 ～5町会連合の防災訓練を実施しました～

令和5年11月に、3年ぶりに5町会連合の防災訓練を実施しました。地震や火災などの災害発生に備え、今年も開催する予定です。災害時にスムーズに地域で助け合うことができるよう、より多くの皆様のご参加お待ちしております。



▲消火器を実際に使って消火訓練をしました。



▲煙体験ハウスを使った避難訓練をしました。



▲消防署職員の指導を受け、救急救命措置の訓練もしました。

問い合わせ先 防災まちづくりに関するご意見を随時受け付けています

事務局：大田区まちづくり推進部防災まちづくり課 市街地整備担当
 電話：03-5744-1338 FAX：03-5744-1526



発行：羽田の防災まちづくりの会

令和6年3月

第21号
**羽田の防災まちづくり
 ニュース**



事前復興まちづくり訓練に取り組んでいます

羽田地区では、昨年6月から本年4月まで4回にわたって「事前復興まちづくり訓練」を実施しています。ガイダンスと第1回訓練の様子をお伝えします。

事前復興まちづくり訓練とは？

目的	メンバー	検討内容
震災後の迅速かつ円滑な復興まちづくりにつなげるため「事前復興まちづくり計画」をとりまとめる	昨年6月のガイダンスを受けて申し込まれた、羽田地区に在住・在勤の方約30名	●もし被災したらどんなまちに復興していきたいか ●災害に備えてどのようなまちづくりができるのかなど

羽田地区の
 防災まちづくり
 に関連する
 内容です

済 ガイダンス
 令和5年6月10日
 事前復興まちづくり
 について学ぶ

ガイダンス(6/10)の様子



ガイダンスでは、訓練のアドバイザーを務める東京都立大学の市古太郎教授より「想定首都直下地震と事前復興まちづくり」の講義を受け、地域協働復興・事前復興について学びました。

済 第1回訓練
 令和5年9月5日
 被災者の視点でまちの
 資源・課題を理解する

第1回訓練(9/5)の様子



第1回の訓練では、発災直後から復興期にかけての課題や、復興時に住み続けたいと思うまちにしていくための羽田地区の魅力について意見交換しました。

済 第2回訓練
 令和5年12月20日
 まちの将来像を考える

第3回訓練
 令和6年4月23日
 事前復興まちづくり
 計画をまとめる

2～3ページで関東大震災[100年]を振り返りましょう

【関東大震災 100 年】震災を振り返り、災害に強いまちづくりを進めましょう

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災が発生から、令和5年で100年を迎えました。

当時の羽田地区の被害は液状化による建物倒壊が主でしたが、現在は家屋が密集しているため、倒壊した老朽家屋などによる火災が多数発生する恐れがあります。大規模な地震による火災延焼を食い止めるため、燃えにくい建物への建替えや防災広場の整備、道路の拡幅など防災まちづくりを進めていく必要があります。

関東大震災では約 29 万棟の建物が全壊・全焼

大正12年(1923年)9月1日、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大地震が発生しました。この地震により、東京・横浜では地震による火災が発生し、東京市では下町から山の手にかけて市街地の約7割が焼失しました。関東大震災による死者・行方不明者は約10万人に達し、そのうち約9割が火災によるものでした。全壊・全焼の家屋は約29万棟にのぼりました。

■関東大震災、阪神・淡路大震災及び東日本大震災による被害状況等の比較

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生年月日	1923年(大正12年)9月1日 土曜日 午前11時58分	1995年(平成7年)1月17日 火曜日 午前5時46分	2011年(平成23年)3月11日 金曜日 午後2時46分
地震規模	マグニチュード M7.9	マグニチュード M7.3	モーメントマグニチュード Mw9.0
直接死・行方不明	約10万5千人 (うち焼死 約9割)	約5,500人 (うち窒息・圧死 約7割)	約1万8千人 (うち溺死 約9割)
災害関連死	—	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟

出典：「令和5年度版防災白書」内閣府

羽田町の被災家屋は約 2,200 戸

大田区では、被災家屋は約4,000戸に上りましたが、火災による被害は1軒だけで、ほとんどは液状化による建物の倒壊でした。

大森町と羽田町の被害が大きく、羽田町では、約2,200戸の建物に被害が及びました。

工場では、東京ガス大森工場の被害が最も大きく、炉本体が崩れるなど被害が発生しました。

■大田区の被害状況

町村名	全壊	半壊	全焼	死亡	不詳	行方不明
大森町	294	785	—	20	11	1
入新井町	95	133	—	10	7	—
馬込村	75	35	—	1	1	—
池上村	23	135	—	6	10	—
東調布村	—	7	—	—	—	—
蒲田村	26	17	—	—	57	—
矢口村	8	28	—	1	4	—
六郷村	41	15	—	5	7	—
羽田村	350	1,849	1	17	14	1
計	912	3,004	1	60	111	2

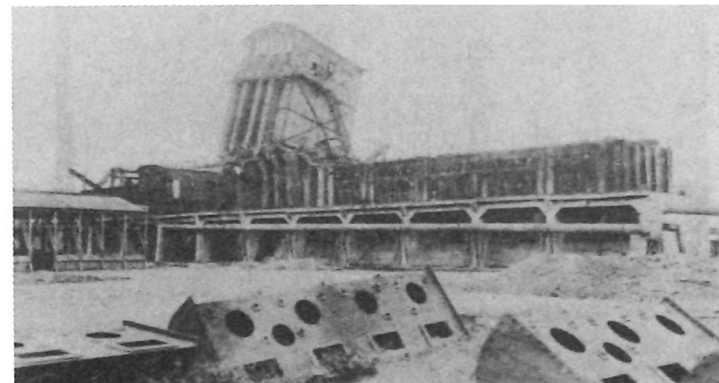
出典：「大正震災史」内務省社会局

■多摩川 六郷橋付近の地滑り



出典：特別展『まちがやってきた—大正・昭和 大田区のまちづくり—』図録(大田区立郷土博物館編集・発行)

■傾斜崩壊した東京ガス大森工場のコークス炉



昭和53年に羽田連合町内会が編集した「羽田町民の体験記集”関東大震災”」より



「関東大震災を省みて」安藤銀蔵氏(羽田西町町会)

あの日、私が家についてから東京方面を見たとき、東京方面は一面火でありました。私の船には、弟が2名残っておりましたが、夜になって、3千メートル沖合まで避難をしたそうです。

あのとき、東京の中心地に龍巻がおこり、風は火とともに15メートルくらいの西風が吹いたそうです。ですから、各人各人が空地に避難していても、皆、火災のため死去したたものと思います。そして本所(注：現在の墨田区)の被服廠跡でも、そのようなことで、皆々火災のため死去したたものと

思います。

羽田地区は、あの当時皆、船業でありましたので、風めしは皆すんでいて、家の中には火の気が皆、なかったものと思います。しかし現在の羽田地区は、56年前の東京市のように家が密集しており、あのときのような地震が発生すれば、必ず羽田地区にも火災が発生するものと思われます。

とにかく地震が発生したれば、なにはともあれ火の元を止めること、次に自分のからだを避難することです。

日頃から災害の備えが大切です

令和6年1月1日に能登半島地震が発生しました。この地震により大規模な火災が発生し、2月15日に総務省消防庁より約240棟が焼けたと調査結果が出されました。

現在、羽田地区では建物が密集しているため、倒壊した家屋などにより火災が発生し、燃え広がる恐れがあります。延焼を防ぐために道路、広場(空地)の整備や、燃えにくい建物への建替え等を進めていく必要があります。

▼石川県輪島市「朝市通り」周辺



出典：防衛省ホームページ
(<https://www.mod.go.jp/j/approach/defense/saigai/index.html>)

皆さまのご協力で道路や広場の整備が進んでいます！



羽田地区では、重点整備路線などの道路や広場の整備を進めています。今後もみんなで協力して、災害に強いまちづくりを進めましょう。

延焼を防ぐ広場の整備

◀ 令和3年に整備した広場(羽田三丁目18番)を拡張する工事を区が行いました。令和6年1月23日に完成しました。

4ページで防災まちづくりの支援制度をご紹介します